

平成五年八月二九日（日）
郷土研究会資料

越谷特産米

「太郎兵衛糯」

越谷市郷土研究会

理事 高崎 力

目次

一、	越ヶ谷糯の評判	1	ページ
二、	太郎兵衛糯の由来と改良	1	
三、	品評会・共進会で上位入賞の太郎兵衛糯	1	
四、	細糯とは	3	
五、	農会と品評会・共進会	4	
六、	大相模村の養鶏	5	
七、	農芸競技会の始まり	7	
八、	太郎兵衛糯の盛衰	7	
付	太郎兵衛糯関係年表	9	

一、越ヶ谷糯の評判

明治三十年頃の越ヶ谷糯米の評判について「水稻糯は埼玉県越ヶ谷にて良種を産し、太郎兵衛糯、撰太郎糯を最も有名とし、菓子屋の有名なる者は必ず之を用ふ」とあり「越ヶ谷糯といわれる種類にはこのほか細糯、柳糯、白髮糯などがある。」(田口晋吉著「米の経済」)。そしていづれの種類も東京の米市場では上位にランクされている。

資料1 明治十一年十二月 東京正米相場(糯の部)

1	越ヶ谷新糯	一・〇七升
2	越ヶ谷糯	一・一二
3	谷原新糯	一・一七 常陸・谷原領
4	ワラ皮糯	一・二〇
5	土浦新糯	一・二一
6	葛西糯	一・二二
7	土浦糯	一・二四
8	行方糯	一・二五
9	曾根糯	一・二五
10	竜ヶ崎糯	一・二六
11	干潟新糯	一・二八
12	行方新糯	一・三一

(越谷市史 二)

二、太郎兵衛糯の由来と改良

大正十四年十二月出羽村農会がまとめた「太郎兵衛糯二関スル調査概要」はそれまで口伝えであった太郎兵衛糯に關し、初めて文章化されたもので要約すると次のようである。

遠く慶長年間(一六〇〇年頃)四丁野村(越谷市宮本町)名主会田太郎兵衛なる者が早稲糯中から抜穂し増植したものとされ後世「太郎兵衛糯」と呼ばれるようになったと伝えられている。ついで元禄年中(一七〇〇年頃)大間野村(越谷市大間野町)の中村某が改良して一層良好なる品種にした。明治二十三年(一八九〇)出羽村中村悦蔵、中村貞次郎等は更に改良して粒大きく茎稈強剛なる品種を作出し「明治太郎兵衛糯」と称した。ついで明治四十三年(一九一〇)出羽村四丁野の大野市五郎は更に改良して「玉糯」を作出した。大正以後は埼玉県農事試験場で品種改良した「太郎兵衛糯埼玉一号」となり埼玉県奨励品種として全県下に普及作付されていった。

三、品評会・共進会で上位入賞の太郎兵衛糯

慶応三年四月のバリ万国博(幕府・薩摩藩・佐賀藩出品)、明治六年五月のウィーン万国博(明治政府初参加)に触発された明治政府は「殖産興業」を旗印に第一回内国博覧会を上野公園(寛永寺跡地)で明治十年八月廿一

日より一〇二日間開催した。出品者一万六千人、出品点数八万点、入場者四十五万人という未曾有の盛況であった。これを契機に以後各地に於て穀物、蔬菜、織物、家禽、醸造、工芸、機械等の品評会・共進会・勸業会が開催されるようになった。(以下年表参照)

これらのうち明治二十五年四月五日〜十五日にかけ粕壁町自助館で開催された南埼玉郡・北葛飾郡・中葛飾郡の三郡連合穀物品評会を次の資料2で概観してみよう。

資料2 明治二十五年四月

南埼玉北中葛飾郡穀物品評会要領報告書

(略)

出品ノ総数八四三三点ニシテ人員三九九人ナリ

粳米	三八三点	二六一人
糯米	四五	四三
大麦	二五	二五
小麦	八	八
大豆	五六	五六
小豆	一六	一六

而テ其審査ノ結果知事ノ褒賞ヲ得タル員数

一等賞	二等賞	三等賞
三	六	六八
一	二	三三

大麦	一	九
小麦	一	四
大豆	一	九
小豆	一	五

褒賞明細表 (稲の部)

一等賞	太郎兵衛	越ヶ谷町	篠田次右衛門
二等賞	〃	蒲生村	大熊安右衛門
三等賞	〃	田宮村	中村兼吉
〃	〃	越ヶ谷町	中川源吉
〃	〃	〃	桃木長蔵
〃	〃	出羽村	関根宇一郎
〃	〃	桜井村	新井国太郎
〃	〃	大相模村	関根松次郎
〃	〃	桜井村	渡辺佐十郎
〃	〃	田宮村	小江戸重次郎
〃	〃	武里村	鈴木幸太郎
〃	〃	新和村	田口磯吉
〃	〃	江面村	奥貫甚内
〃	〃	三輪野江村	戸田善次郎
〃	〃	三箇村	荒川与惣兵衛
〃	早稲太郎兵衛	増林村	関根宗輔
〃	〃	田宮村	田中彦右衛門
〃	撰太郎	三輪野江村	飯箸徳蔵
〃	三次郎	潮止村	高橋儀助

三等賞	玉子糯	江面村	高山伊三郎
〃	比女	武里村	志村寿美吉
〃	八重城	江面村	小林峯吉
〃	玉子穗	八代村	倉持治助
〃	銀世界	新和村	大塚新太郎
〃	細糯	蒲生村	中村信太郎

(以下略) (八潮市立資料館蔵)

以上糯の部では一、二等とも太郎兵衛糯、三等賞二十点中十四点が同じ、従って入賞総数二十五点中十七点が太郎兵衛糯である。

四、細糯とは

細糯は別名「御膳細糯」ともいわれる越ヶ谷糯の一品種で蒲生村、大相模村の一部でしか作付は行われていなかった。

資料3 明治四十二年七月 越ヶ谷糯の由来

現今東京市中に於ても喧伝せれつつある越ヶ谷糯が如何なる動機に依り斯くの如き名声を博するに至りしやに付ては世間其由来を知る者稀なり。依って少しく其来歴を述べんに、往古埼玉郡瓦曾根村に中村彦左衛門(前蒲生村長目下日進銀行越ヶ谷支店長中村彦左衛門氏の家なり)といふ者ありしが、徳川幕府より年

々越ヶ谷糯二百俵以上五百俵以下の御用を承はりて首尾能く御用を弁じつつありしを以て、中村家は苗字帯刀御免並に若干の御扶持を頂戴し居りて、幕府が大政奉還當時まで継続しつゝあり。而して越ヶ谷糯と称する同地方附近に於て産出する糯米の総称と成れるが、中村家より徳川幕府に納入したる細糯と称する種類にて、同家独専のものにて(御止め米として他に耕作を許さず)他には決して種子の分与等を許さざるものなれば、現今に至るも細糯の種子は中村家の外作付を為すものなし。且つ該種は耕作甚だ困難にして収穫の如きも他の種類に比して一反歩優に一俵以上の減収なりと云ふ。去れば幕府御買上げの當時も、他の上糯に比して価格は一斗高の割合を以て計算せしものなりと云ふ。而して該糯米の取扱方に付ては頗る町重のものにて、先づ倉庫を別にし周囲に注連を張り、仙台篩にて秕若くは捻れ粒を選び分くると云ふ。殆ど一粒選りとも云ふ可き程にて其仕上げを終れば其内一俵を御搗き試めしと称して前送りをするものなるが、此時は「御用」の札を真先に押し立てて人夫に荷はせ「下に居ろう」の掛声にて江戸御米蔵に送り付くるものにて、此際通行の諸大名と雖も悉く道を避くるの規定にて其勢ひは実に宏大なるものなりしと。又御米蔵に入るものなりと云ふ。要するに越ヶ谷糯と称するは以上の来歴を有する者にて、中村家より徳川幕府に納入せし以来始めて全国に其名を知らるるに至りしものなり。

(明治42・7・7付「埼玉新報」国立国会図書館蔵)
中村家は代々瓦曾根村の名主を勤める豪農で明和八年(一七七七)十一月勘定奉行石谷備後守より御膳細糶買受人に指定されて糯米を江戸城中御用として納めていたので天明四年(一七八四)一月には其身一代帯刀苗字末代まで許可されている。

五、農会と品評会・共進会

明治政府による内国博覧会には全国から出品物が集まり盛況であった。このような催しは政府の奨励と相俟ってやがて地方単位で開催され、村、郡、県、及びこれらの連合体でも行われる一方各地に農会が組織され、やがて単一農会、連合農会主催による品評会・共進会が企画運営されていくようになった。

資料4 明治三十年 南埼玉郡桜井村農会規約

第一条 本会ハ農事ノ改良発達ヲ謀ルヲ以テ目的トス
(略)

第六条 本会ノ会務左ノ如シ

一、上級農会ノ報告ヲ会員ニ周知セシメ及上級農会ヘ報告ヲナスコト

- 二、農産品評会ヲ開クコト
 - 三、種苗交換及売買媒介スルコト
 - 四、虫害駆除ヲ謀ルコト
 - 五、肥料ノ共同購入ヲ謀ルコト
 - 六、試験場ノ設置及管理ノコト
 - 七、農具及土地改良ノコト
 - 八、耕耘及栽培改良ノコト
 - 九、獣疫及霜害予防ノ方法ヲ設クルコト
- (以下略)

(越谷市史 四)

資料5 明治三十三年 南埼玉郡農会会則

第一条 本会ハ郡内農業ノ改良進歩ヲ図ルヲ以テ目的トス
(略)

第七条 事業

- 一、農蚕業ノ試験講習講話及共進会品評会開設
- 二、町村農会ノ事務ヲ監督
- 三、農蚕業ノ調査統計
- 四、種苗種畜蚕種肥料農具等ノ交換分配
- 五、耕地ノ整理灌漑排水及農家ノ副芸
- 六、動植物ノ病虫害駆除予防
- 七、農業ノ保護ニ要スル森林樹苗植栽
- 八、県農会ヘノ報告卜町村農会ヘノ通知

(以下略)

(八潮市立資料館蔵)

資料6 明治二十四年十一月

南埼玉郡越谷町外十三町村連合勸業会規則

第一条 本会ハ農工商業ニ関スル重要事項ノ利害得失

ヲ講究シ其ノ改良振興ヲ計ルヲ以テ目的トス

第二条 本会ハ南埼玉郡越ヶ谷町、大沢町、大相模村、

川柳村、蒲生村、新方村、増林村、出羽村、八幡村、

潮止村、大袋村、荻島村、桜井村、八條村ノ十四ヶ

町村ヲ以テ一区域トス

第三条 本会ハ第一条ノ目的ヲ達センカ為メ左ノ諸項

ヲ挙行ス

一、談話会

二、品評会

三、評議会

(以下略)

(八潮市立資料館蔵)

資料7 明治四十一年十二月

長野県主催一府十県連合共進会

(現越谷市域の出品及受賞表)

(町村) 出品数 受賞等級数 品名 受賞者

(町村)	出品数	受賞等級数	品名	受賞者
桜井村	五			
増林村	九	四等賞 一	大麦	須賀丑蔵
出羽村	三			
大相模村	六	四等賞 一	鶏	中村重太郎
越ヶ谷町	二			
大沢町	一			

(八潮市立資料館蔵)

六、大相模村の養鶏

資料7の長野県主催一府十県連合共進会において大相模村の鶏が四等賞を獲得している。この経緯を探ってみる。大相模村の本格的養鶏は明治二十一年の埼玉県知事による「論達」および明治二十三年からの西洋鶏の輸入以後と考えられる。

資料8 明治二十一年六月 家禽飼養奨励の論達

家禽ハ農家欠クヘカラサル有益ノ副産物ナリト雖モ従来ノ慣習トシテ之レヲ飼養セシモノハ多クハ徒ニ時晨ヲ知り遣位ヲ拾ハシメ 或ハ愛翫ノ具トナスニ過キスシテ敢テ其經濟如何ハ眞テ顧ミサルモノノ如ク 従テ其飼育ノ数モ甚タ寡ナカリシナリ 然ルニ軌近世態

一変シテ肉食スルモノ漸ク多キヲ加ヘ、家禽鶏卵ノ如キ大ニ其需要ノ増加スルニ從ヒ之レカ供給頓ニ欠乏ヲ告ケ、殊ニ鶏卵如キ八年々支那ヨリ輸入スル卵數殆ント數百萬顆ノ巨額ニ達セリ

(略)

思フニ家禽中最モ利益アルモノハ鶏類ナリトス、殊ニ農家ニ於テハ其ハ彼ノ有害ナル昆虫ノ駆除、彼ノ有益ナル鶏糞ノ肥料等均シク之レ農家業上莫大ノ補益ヲナスモノナレハ是レカ蕃殖ヲ図ルハ農家緊要ノ事業トイフ可キナリ、然リト雖トモ今之レヲ飼養セントスルニ於テモ「其家禽」復或ハ肉用採卵各其種類ノ異ナルアリ、「又」或ハ氣候風土各其適否ノ別アリ宜シク之レカ選択ヲナスンハ擧ケテ其利益ヲ見サル可シ

(略)

明治廿一年六月廿六日

埼玉県知事 吉田清英

(埼玉県立文書館蔵)

資料9 明治四十年十一月

大相模村養鶏ニ関スル調査

(略)

明治廿三年鶏種「淡色フラマ」「褐色レクホーン」「黒色スパニシ」等ノ輸入セラレシヨリ、中村重太郎

ハ之レカ種卵ヲ購入シ飼養蕃殖スルト共ニ在来ノ地鶏交趾ノ類ト交尾セシメ雜種ヲ作出シタルニ、産卵頗ル多ク殊ニ性質ハ温順ニシテ柵飼ニ適當セルヲ以テ村民中是等種類ヲ増殖ス

(略)

一利一害ハ數ノ免レサル処ニシテ之レカ為忽チ流行熱變シ各戸放飼ノ結果耕作物ヲ害シ収支相償ハストノ説ヲ唱導セラレ、熱度ノ冷却ト共ニ斯ノ有益ナル事業ハ漸次衰退シ明治三十年頃ニ至リテハ殆ント飼養スルモノ稀ナルニ至レリ、然レトモ創始者ハ之レヲ意ニ介スルニ足ラストシ益々改良發達ヲ図リシニ人目シテ狂ナリトセリ

同三十五年ニ至リ真ノ熱心家齊藤大助、鈴木熊次郎、浅見唯次、関根松次郎等ノ同志ヲ得相共ニ養鶏ノ利益ヲ唱ヒ蕃殖ヲ奨励セシ為メ、爾來飼養家ヲ増加シ毎戸飼育セサル者ナキニ至レリ

(以下略)

(埼玉県立文書館蔵「県報第一六五四号」)

資料10 明治四十年十二月

南埼玉農會重要物産品評會四日目(於久喜小学校)

(略)

第八号館家禽は本日に至り尚出品増越し来り為ニ陳列場狹隘を感じたるに彼の熱心なる大相模方面の愛禽家

は場外に陳列する有様なり。同日午後までに観覧員数五八六〇人に達したり。

(明治四十一年一月一日付関東新報)

七、農芸競技会の始まり

戦前まで続いていた村単位の品評会・共進会の呼び物の一つに縄緬(ない)競技が等あった。

資料II 明治四十二年十二月

南埼玉郡農会主催第六回重要物産品評会

(通知書) 品発第一三〇号

来ル二十五日品評会褒賞授与式当日別紙方法ヲ以テ農芸競技会開催致候條来ル十二月十五日迄ニ競技員左記ノ通り選出御報告相或度及照会候也

明治四十二年十二月三日

第六回重要物産品評会 印

〇〇 長殿

記

- 一、縄緬競技員 一名以上
 - 一、俵装競技員 一名以上
 - 一、運搬競技員 一名以上
- 農芸競技方法

(一) 縄緬競技 一定量ノ藁ヲ用意シ号令ト共ニ開始

シ其ノ作業ノ最モ早く且ツ優良ナル者 二回実施

(二) 俵装競技 大麦(五斗入)米(四斗入)の表俵

装ヲ行フ其ノ作業ノ最モ早く優良ナル者

(三) 運搬競技 競技ハ四回 第一回第二回ハ大麦俵、

第三回第四回は米俵ヲ一定ノ場所ヨリ肩担シテ百米突端距離ニ樹テタル旗ヲ抜き取り元ノ場所ニ復帰スル

(略)

賞品ハ左記ノ如シ

一等賞 簀一 笠一

二等賞 簀一

三等賞 鎌一

四等賞 笠一

(八潮市立資料館蔵)

八、太郎兵衛糯の盛衰

太郎兵衛糯の全盛期は明治期から大正期までであった。昭和に入ると衰退し、戦時色が濃くなると質から量へと転換し収穫の少ない太郎兵衛糯の作付は激減していった。

資料12 大正十四年「太郎兵衛糯二関スル沿革」より

献納 ○ 大正元年陸軍特別大演習ニ際シ埼玉県川越町行在所ニ献納セリ

○ 大正四年御即位大典ニ際シ南埼玉郡各町村ノ指定ニ依リ献納セリ

尚大正九年十月十五日皇后陛下新シク大宮町ニ行啓ノ御幾多本県物産中忝ケナクモ本村ノ太郎兵衛糯ハ御買上ノ光榮ニ浴ス此他越ヶ谷町米商ヨリ宮内省納糯トシテ購入ノ注文ヲ受ケシコト数度ニ及ベリ

伝献願
一 祝餅 壹重
右 皇孫殿下御誕生奉祝ノ為メ献上致度候條 特別ノ御詮議ヲ以テ御伝献相成度此段奉願候也

大正十四年十二月八日
埼玉県南埼玉郡出羽村農会 代表 井出門平

埼玉県知事 齊藤守因殿
(埼玉県立文書館蔵)

資料13 大正三年―昭和三年

本県に於ける水稻品種の変遷

(略)

大正十一年 水稻品種分布調査成績
糯品種数五六一品種 作付面積七四七〇町步中百町步

以上の作付面積を有する品種

順位	品種名	分布区域	作付面積(町)
1	太郎兵衛	全県下	一二五〇
2	小針	足入比叺大北南葛	九五七
3	三次郎	〃	八九一
4	愛国	足入比叺大北川	三九八
5	柿ノ木	足入比叺大北南	三一〇
6	福沢	葛	一九八
7	柳	足入比叺大北南川	一六四
8	玉	足入北南	一五八
9	保丹	足入川	一五七
10	関取	入比叺大北南葛	一五五

(以下略)

大正四年・昭和三年水稻品種別生産米検査俵数調比較
糯の部(一万俵以上ノ検査俵数ヲ有スル品種)

大正四年				昭和三年			
順	品種	受検俵数	%	順	品種	受検俵数	%
1	太郎兵衛	三〇、〇五五	二四%	1	三次郎	四一、四九二	二〇%
2	福沢三次郎	一四、四〇二	一一%	2	小針	二六、五〇八	一二%
3	三次郎	一一、六六〇	一〇%	3	玉	一八、二七六	九%
4	小針	一〇、四四二	八%	4	太郎兵衛	一五、六三二	八%
				5	白髮	一一、二七六	六%

(以下略)

(埼玉県立農事試験場編「埼玉県下に於ける水稻品種調査成績」)

〓年表

太郎兵衛糯関係〓

明治10年6月21日

「埼玉県地誌略」埼玉郡の物産越ヶ谷糯

慶長年間

四丁野村名主会田太郎兵衛早稻糯より優良種抜穂

明治10年8〜11月

第一回内国博覧会於上野公園、越ヶ谷町会田銀之助偶人出品花紋章受賞、入場者四五万人

元禄年中

大間野村中村某太郎兵衛糯を沼田に移植成績優良なる糯を作出

明治11年12月

越ヶ谷糯東京正米相場で最高値

明和8年11月

瓦曾根村中村家幕府より御膳細糯買受人に指定

明治12年9月

製茶共進会於横浜（共進会の始）

天明4年1月

中村彦左衛門苗字帯刀許可

明治14年3月

第二回内国博覧会上野公園

慶応3年4月

パリ万国博幕府薩摩藩佐賀藩出品

明治21年6月23日

知事「家禽飼養奨励」論達

明治4年

京都博覧会於西本願寺

明治23年4月

第三回内国博覧会上野公園糯米出品者蒲生村一、出羽村一、萩島村一、大沢町一、増林村四、新方村一

明治5年

地方博覧会（和歌山、岡崎、土浦、高知、金沢）

明治23年

出羽村興農会主中村悦蔵、会員中村貞次郎等品種改良により「明治太郎兵衛糯」を作出

明治6年

ウィーン万国博明治政府初参加

明治5年調査

「地誌提要」埼玉県物産大沢町の桃、鉤上村の糯米

明治23年

大相模村中村重太郎輸入鶏と地鶏の交尾により雑種鶏を作出

明治24年11月

越ヶ谷町外十三町村連合勸業会発足

明治33年3月25日

南埼玉郡農会主催第一回重要農産物共進会岩槻町で開催

明治25年4月

南埼玉北中葛飾三郡穀物品評会粕壁町自助館で開催太郎兵衛橋は上位独占

明治33年9月26日

農会令公布

明治26年4月

一府六県連合共進会、宇都宮で開催

明治33年10月14日

埼玉県農友会結成

明治28年4月

第四回内国博覧会京都岡崎公園で開催、入場者一一三万人、木綿の部へ萩島村堀井甚五右衛門、越ヶ谷町小泉庄次郎、小泉市右衛門、大沢町疋野清太郎ら出品

明治36年3、8月

第五回内国博覧会大阪天王寺公園で開催入場者四三五万人。桜井村から大豆を中村四万吉、中村定八郎、山口喜三郎、小島忠太郎、中村周太郎、須賀茂忠次、米は深野弘一が出品

明治30年

桜井村農会発足

明治30年12月

埼玉県下二三六町村に農会成立(三分の二町村)

明治40年11月

「大相模村養鶏に関する調査」

明治30年頃

大相模村養鶏盛んとなる

明治40年12月24日

南埼玉郡農会主催第四回重要物産品評会久喜高等小学校で開催、越ヶ谷町山田屋出品瓦斯紅梅好評 大相模村愛禽家多数出品

明治31年2月7日

南埼玉郡農会設立

明治33年3月7日

産業組合法(信用・販売・購買・生産)発布

明治41年2月14日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覧会岩槻町郡役所で開催

明治41年12月

長野県主催一府十県連合共進会長野市で開催、大相模村中村重太郎鶏四等賞

大正9年10月15日

皇后陛下大宮町行啓の御太郎兵衛糯御買上

明治42年7月

「越ヶ谷糯の由来」埼玉新報に掲載

大正11年

埼玉県水稻糯品種別作付面積で太郎兵衛糯は第一位

明治42年11月5日

埼玉県農会主催第二回家禽品評会及第一回園芸品評会開催

大正12年頃

桜井村太郎兵衛糯反当收穫量二石一斗

明治42年12月23日

南埼玉郡農会主催第六回重要物産品評会粕壁小学校で開催出羽村農会稲の部で四等賞この時細絢、俵装、運搬の農芸競技会が始まる

大正14年12月8日

皇孫殿下御誕生奉祝祝餅壹重献上

明治43年

出羽村大字四丁野老農大野市五郎太郎兵衛糯より「玉糯」を作出

大正14年12月

出羽村農会「太郎兵衛糯二関スル調査概要」報告

昭和3年

埼玉県水稻品種別生産米検査俵数調糯の部で太郎兵衛糯は全県下で8%で第四位に転落

大正元年11月15日

陸軍特別大演習川越行在所に太郎兵衛糯献納

昭和18年

農業団体法施行（農業会）

大正4年11月10日

御即位大典に際し太郎兵衛糯を献納

昭和20年8月15日

終戦

大正4年

埼玉県水稻品種別生産米検査俵数調糯の部で太郎兵衛糯は全県下の24%を占め第一位

昭和22年11月19日

農業協同組合法公布

昭和27年11月

越ヶ谷地区管内十四ヶ村農産物共進
会越ヶ谷高等学校で開催

昭和29年11月3日

町村合併「越谷町」

昭和31年12月

越谷町農産物共進会大沢中学校で開
催、児童生徒展覧会、農具展示会同
時開催

昭和50年12月15日

広報こしがやに「越ヶ谷橋―消えゆ
くもち米」掲載

平成5年3月3日

朝日新聞「太郎兵衛もち―細々と続
く特産米越谷市品種保存へ―」掲載

平成5年3月16日

埼玉新聞「太郎兵衛もち保存へ」が
掲載